

がん診療におけるPDCAサイクルの実施状況について（2025年度）

分野	番号	課題名	目標設定	Plan	Do	Check	Act
教育研修	1	web研修会を開催する。	web研修の数	web開催も含めた、がん診療連携拠点病院間の研修に参加。	・院外向けの研修会、セミナーの大半については、ハイブリッド型での開催とした。（公開健康講座、医療連携セミナー、医療連携懇談会 等） ・他拠点病院が開催する研修会に参加した。	ハイブリッド型で開催したことにより参加人数の増加が図られた。	・ハイブリッド体制を維持
	2	教育研修の充実のために、県内web研修に参加する。	県内web研修に参加する。	web開催も含めた、がん診療連携拠点病院間の研修に参加。	がんに関連する職種に委員会及び事務局から開催案内を周知。	・千葉県がん診療連携協議会相談支援専門部会相談員研修会 ・千葉県がん診療連携協議会教育研修専門部会がん看護研修部会主催がん看護研修会 その他、各職種において学会、医療機関が開催するセミナー等に参加。	・医療機関が主催の研修会について情報を院内で共有し、積極的に参加していく。
	3	・緩和ケア研修会の外部受講者の招致 ・医師以外の職種の受講	・県全体にかかる開催案内 ・院内の積極的な受講案内	・県全体にかかる開催案内 ・院内の積極的な受講案内	・当院また県のホームページへ開催案内を掲載 ・未受講者リストを各診療科部長へ配布周知、また緩和医療に携わる職種への周知を実施	・参加者は医師に限らず、看護師および薬剤師の参加もあり 18名 ・今年度末に2回目の開催を予定しており、医師、看護師および薬剤師の参加と院外より7名の参加を予定している。	院外受講者の目標達成。今後も体制を継続し、院内外の多職種での受講を目指す。
院内がん登録	1	院内がん登録実務者のスキルアップおよび登録内容の精度向上。	①がん登録 病院等実務者 中級認定更新試験の合格(専従者1名)。 ②実務者の知識の共通認識を深める。	①がん登録 病院等実務者 中級認定更新試験の受験(専従者1名)。 ②研修会への参加とダブル チェックの強化。	①がん登録 病院等実務者中級認定更新試験に向け学習を行った。また、試験内容について実務者間で共有し、今後の実務や試験に役立てるように図った。 ② ・国立がん研究センター、千葉県がんセンター主催の研修会に参加した。 ・2024年症例の登録について、前年度千葉県がん登録室から指摘を頂いた項目に注意して登録を行った。	①がん登録病院等実務者中級認定更新試験試験について合格することが出来た。自己学習することで受験者のスキルアップ。また試験内容を共有することで実務者間の共通認識を深めることが出来た。 ② ・研修会に参加したが、実務者間でのフィードバックは行わなかった。 ・千葉県がん登録室からの問合せ件数が前年度の約50件から3件に減少した。登録内容の精度向上が図ることが出来たと考えられる。	①試験についての改善は特にないが今回学んだ事は、今後の実務に反映させたい。 ②全ての登録データに対しダブルチェックを行うことが出来なかった。全データのダブルチェックを行うにはどのようにすればよいか今後の課題として取組んでいきたい。
相談支援	1	【相談の質向上】 恒常的な質向上に努める必要がある。	1. 相談員基礎研修や県相談員研修会を受講する 2. 認定がん専門相談員を持つ相談員が増える 3. 相談利用者からのフィードバックを待て、部会場で共有し質向上に繋げる。	相談員基礎研修(1)(2)受講者2名、(3)受講者1名参加できるようにする。	相談員基礎研修(1)(2)1名、(3)1名受講した。	計画を実行することができた。	来年度以降も研修受講できるようにする。特に相談員研修(1)(2)は複数名参加できるよう、部署内で配慮する。
	2	【がん相談の周知】 周知活動における施設差により、周知が進んでいない可能性がある。	1. 地域に向けたがん関連イベントへ積極的に参加する。 2. 各病院の職員ががん相談支援センターを理解するための活動を年1回は開催する。	・がん関連イベントへの参加 ・研修会等でがん相談支援センターの周知を図る。	・緩和ケア研修会で院内職員、院外の研修参加者に向けてがん相談支援センターの紹介を行った。 ・がんサロンやピアサポーターズサロンちばで当院で作成したがん相談支援センターのリーフレットを配布した。	・院内職員(特に研修医や看護師)に向けたがん相談支援センターの周知活動を行うことができた。年度内にあと1回緩和ケア研修会があるため、そこでも周知を図っていく。 ・サロンで周知を行うことで、院外からのサロン参加者にもがん相談ができることをお伝えすることができた。	がんイベントへの積極的な参加を目指す。
	3	就労相談体制の充実	就労相談や両立支援ができることについて周知を図り、相談件数を増やす。	・リーフレットの配布、ポスターの掲示を行う。 ・研修会での周知を図る。 ・産保センター等で開催される研修会に参加する。	・緩和ケア研修会で就労相談ができることを紹介した。 ・がん相談支援センターの広報コーナーで就労相談に関する資料を配布した。	昨年度と今年度上半期までで、件数の増え方はほとんど変化がなかった。	各科外来にも就労相談の資料を配布するなど、広報の仕方を工夫する。
緩和ケア	1	【緩和ケア研修会(研修の実施体制)】 がん診療連携拠点病院等において、基本的な緩和ケアを実践できる人材の育成	「がん診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」の受講を推進する。 ①1年以上自施設に所属するがん診療に携わる医師・歯科医師: 90%以上の受講 ②自施設に所属する臨床研修医(2年目): 100%の受講 ③自施設以外に所属するがん診療に携わる医師・歯科医師、医療職者、および自施設の医師・歯科医師以外の医療職者の受講を推奨	昨年に引き続き年度内2回の開催を目指し、院内、また院外医療従事者の修了者の増加を図る。	・在籍する修了者、未受講者及び対象者のリストを作成し、直接周知または所属長からの働きかけを実施。(診療科ごとの受講率等) ・院外の医療従事者についても千葉県ホームページ、地域の医師会を通じて開催を案内。	・前年度より年度内2回の開催を計画し、現時点で1回目を開催。院外かつ医師以外の職種についても受講いただいた。 ・2回目も既に数名院外より申し込んでいる。	・今年度受講希望がなかった職員への周知徹底。 ・在籍職員への修了報告の実施。 ・引き続き院内外向け周知を実施。
	2	県内施設における、緩和ケアチーム活動の質向上	チーム活動の質を向上する。	昨年度に比し、依頼件数の増加を目標	左記実施	昨年同時期に比し依頼件数微増	継続
地域連携	1	BCPを念頭においた 施設(クリニックや診療所を含む)間のがん診療連携をより確立する。	・平常時に患者に最適ながん診療を提供するために、県内の各施設で可能ながん診療の機能を調査し、共有して、その情報を利用したがん患者の診療連携を行う。 ・以前に定めた「拠点病院協議会の主な役割」に示された薬物療法、手術療法、IVRの集約化ならびに連携について、千葉県内の共通認識をつくる。 ・情報は、「千葉がんネット」だけでなく、医師会等とも共有し、クリニックや診療所との連携もより強化する。	・院内にてリストを共有し、他院で平時診療機能がない項目についての紹介促進及び当院で診療機能がない項目における逆紹介を促進するために、連携懇談会や各種セミナーにおいて周知、情報共有を図る。	・主催共催を含めた各種連携懇談会、セミナーを多数開催。	がん関連紹介入院件数(月平均) 2022年度 244件 2023年度 276件 2024年度 273件 2025年度 290件 (10月累計実績)	・引き続き連携懇談会や各種セミナーにおいて周知、情報共有を図る。 ・薬物療法、手術療法、IVRの集約化の今後の情報共有を活用し、連携強化を図る。
小児がん	1	【移行期医療】 小児がん患者が成人への移行期にフォローアップが途絶える。	小児医療から成人の医療へスムーズに移行できる体制を整える。	・移行期医療の知識や情報を共有する ・移行期医療に関する勉強会への参加を促す	講演会等の情報を院内担当部署に連携し参加を促した。	実際の参加状況については把握できていない。	多職種カンファなどで参加状況を確認していく。
	2	成人疾患の合併に対する対応	合併症等につき成人診療科とタイアップし診療を続けていく。	定期受診の継続と、勉強会への参加を促す。	血液内科小児科合同カンファレンスは月1回継続できている。SWを中心としたサポートチームは必要な介入を十分に行うことができた。	参加者の増加。	講演会への参加を促し、さらに経験を積む必要がある。
がんゲノム医療	1	がんゲノム医療に携わるスタッフを配置することが難しい	院内におけるがんゲノム医療に対する知識・関心の向上 がんゲノム医療実施に必要な自院人材確保	中核拠点・拠点病院開催の研修会参加	臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラーを採用した。学会主催のゲノム医療講演会に参加した。厚生労働省へ、がんゲノム医療連携病院の申請を行った。	2025年8月1日付がngenゲノム医療連携病院の指定を受けた。 現在、4例出検。	現在、24例出検。 今年中に他院からの紹介患者の受け入れを予定している。 遺伝子パネル検査「ホームサイト」も1例施行。